

9月中旬に編集後記を執筆していますが、まだまだ猛暑が続いており秋の気配が待ち遠しい限りです。本号がお手元に届く頃にはあっという間に秋が過ぎ冬間近でしょうか。このまま温暖化が続けば秋冬はどうなるのかと不安になってしまいます。

さて、今回の特集は「脊椎脊髄疾患の鑑別上、知っておきたい疾患」です。以前、高度な背部痛を主訴とした患者さんが紹介されました。MRIにて胸椎に多発性信号変化があり、転移性脊椎腫瘍が疑われ受診となりました。全身的な病変検索のため各種採血のほかにFDG-PET検査も行われ、転移性脊椎腫瘍は否定されたものの胸椎には多発高集積領域が散在していました。椎体に大きく浸潤し多発していましたが脊椎破壊は高度でないため、リンパ腫や骨髄腫などが鑑別上重要との判断に至りました。脊椎以外に病変はありませんでしたが確定診断のためには少なくとも脊椎生検は必要であり、疼痛は高度で日常生活にも支障をきたし、病変進行に伴う二次的な椎体骨折も懸念されるため、早めの脊椎固定術の併用も考慮しました。事前に血液内科の先生に相談したところ、「この患者さんは関節リウマチに対しメトトレキサート（MTX）を4年間服用しており、“メトトレキサート関連リンパ増殖性疾患（MTX-LPD）”ではないでしょうか」とご助言をいただきました。リンパ増殖性疾患はもともと関節リウマチの方に生じやすく、関節リウマチがなくても、ほかの疾患に対する免疫抑制剤投与例でも生じ得る疾患です。MTX-LPDの半数はリンパ節に発生し、骨病変自体が少なく脊椎発生率はきわめてまれようですが、MTX中止にて寛解する可能性があるとのことでした。MTX中止後、速やかに背部痛は軽減し、その後の生活は元に戻り、画像上も病変は改善しており、関連する血液検査からもMTX-LPDに矛盾しない経過でした。長期的な経過をみる必要はありますが、血液内科の先生のアドバイスがなければ私には思い浮かぶ疾患ではなく、侵襲的な外科治療が真っ先に行われた可能性も否定できません。本特集の企画を担当された亀山隆先生のご指摘のように「知らない病気は診断できない」の原則であり、もちろん適切な治療も行われなくなってしまいます。

年齢を重ねるとともに専門分野に特化しやすくなり、新分野の知識や未知の疾患は敬遠しがちになります。したがって、ベテランの医師ほど経験上の固定観念がむしろ診断治療の前面に出る傾向があります。しかしながら、罹患率が高く、多種多様な愁訴を伴う脊椎脊髄疾患こそ関連疾患の知識を日々増やさなければなりません。今回の特集においても、以前みた症状や所見はこの病気だったのではと振り返させられる項目も含んでいます。

本号は、この分野に関わる医療人にとってレベルアップのためぜひ熟読すべき一冊となっています。

（高橋敏行）

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 小柳知彦 田代邦雄
国分正一 服部孝道

編集委員

松山幸弘（編集委員長）
高見俊宏（副編集委員長）
亀山 隆 金 景成 黒川勝己
下川宣幸 高橋敏行 筑田博隆
永島英樹 中西一義 中村雅也
西田康太郎 原 政人 堀 正明

Vol. 38 No. 11
(2025 年 11 月 25 日発行)

毎月 1 回 25 日発行

1 部定価（本体 2,500 円＋税）
（配送料別）

年ごめ予約購読料 33,300 円＋税
送料弊社負担

発行／株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷 6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

（担当：西本・山岸）

印刷所／三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所／

（株）文栄社

TEL 03-3814-8541

（株）ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2025,
Printed in Japan

JCOPY 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。